

○登場人物

・風見仁（30歳） 珈琲の移動販売（キッチンカー）で全国を旅している。飄々とした振る舞いだが、旅の目的は「夢探し」であり、色々な出来事に自ら巻き込まれに行く。

・品川智則（23歳） パチンコで散財し、アパートの家賃が払えない金欠な貧乏人。心配性な性格。フリーター。高校時代からの友人兼同居人の火村俊之と犯罪で一気に金儲けを企む。

・火村俊之（23歳） 智則の旧友で、同居人。同じくパチンコで散財。陽気な性格だが、いざと言う時はかなり奥手。気持ちが高ぶると田舎口調に（青森弁）。犯罪で金儲けを企む。

シーン1

【公園の音、鳥のさえずり、軽い街の喧騒】

仁（明るく）「いらっしやいませ、香り豊かな風見珈琲はいかがですか？」

【足音が近づく】

智則（小声で）「誘拐か、銀行強盗か、どっちがいいかな？」

俊之（小声で、田舎口調で）「いや、やっぱ銀行強盗だべさ。誘拐はリスク高えんだわ。」

仁（興味津々）「お二人さん、なにやら物騒な話してるけど、何かあったの？」

智則（困った様子で）「実は、家賃が払えなくてさ、犯罪で一気に金儲けしようって考えてるんだ。」

俊之（少し焦って）「でも、正直自信ないんだよね。だから、銀行強盗の予行演習に付き合っただけなんだ。」

仁（呆れて）「（こんな二人なら放っておいても大丈夫だろう）：まあ、付き合ってみるか。」

シーン

【数日後、再び公園の音】

仁（心配そうに）「おい、お二人さん。何があったんだ？」

智則（落ち込んで）「銀行強盗しようとしたんだ。」

仁（驚いて）「詳しく話してみなよ。」

シーン 3

【回想シーン。銀行のドアベルの音、軽いざわめき】

智則（小声で）「よし、行くぞ。お前、後ろ見てろ。」

俊之（小声で）「了解だべ。」

【二人が歩く音、カウンターに近づく】

智則（緊張して）「すみません、お金を全部……」  
銀行員（驚きと喜びで）「智則君？」

智則（驚いて）「え？佐藤？久しぶり！どうしてここに？」

佐藤（嬉しそうに）「ここで働いてるんだよ。」

智則君もしかして、口座作りに来たの？」

智則（焦って）「あ、ああ、そうだよ！口座作りに来たんだ！」

【俊之が近づく音】

俊之（焦りつつ）「お、おう、久しぶりだな。」

佐藤（和やかに）「君もいたのか！二人で口座作りに来たのか？じゃあ、手続きするね！」

【手続きの音、二人が銀行を後にする】

シーン

【公園に戻る】

智則（溜息混じりに）「…ってことで、銀行強盗は失敗した。」

仁（笑いをこらえて）「なるほど。それで次は誘拐を？」

俊之（真剣に）「そうだべ。次こそは成功させるつもりだったんだ。」

シーン

【回想シーン。夜の街の音、車の音や人の声が遠くから】

智則（静かに）「あの子だ。行くぞ。」

俊之（確認するように）「了解だべ。」

【二人の足音が女学生に近づく】

女学生（独り言で、泣きながら）「もう、全部

終わりにしたい…」

智則（慌てて）「お、おい、何してるんだ！」

女学生（涙声で）「学校でいじめられて…もう

生きていくのが辛い…」

俊之（優しく、田舎口調で）「そんなこと言う

なべ！まだ人生これからだべさ！」

【二人が女学生を励まし、その場を離れる音】

シーン

【再び公園の音】

智則（溜息混じりに）「……ってことで、誘拐も失敗した。」

俊之（困惑して）「まさか、救助することになるとは思わなかったべ。」

仁（笑いながら）「なんだか、君たちらしい結末だな。」

【少しの静寂】

智則（決意を込めて）「もう犯罪はやめだ。まっとうに働いて金を稼ぐよ。」

俊之（同意して）「そうだべさ、まっとうに生きるのが一番だ。」

仁（優しく）「それがいい。俺もまた旅に出る準備をするよ。」

【智則と俊之が去る足音】

仁（独り言で）「…あれ？俺の店を強盗すればよかったんじゃないか？ま、いいか。」

【キッチンカーのエンジン音、徐々に遠ざかる】

仁（楽しみに）「さて、次の街へ出発だ。」

【エンジン音がフェードアウト】

ナレーター「夢探しの旅は続く…。風見仁と風見珈琲は、今日も新たな出会いを求めて道を行く。」

END